

<第2弾> Press Release より抜粋

クルマを超えて、クルマを楽しむ。
Classic Meets Modern and Future

AUTOMOBILE COUNCIL 2024

特別展示 初の「American Heritage アメリカンヘリテージ」の名車達

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

4月12日(金)から14日(日)の3日間、千葉県千葉市・幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2024」。

今回は、「AUTOMOBILE COUNCIL」9回目にして初めて“アメ車”ファンからの要望に応じて、アメリカ車をフィーチャーした特別展「American Heritage アメリカンヘリテージ」の名車達を行います。

オイルショック以前、世界のモータリゼーションをリードしていたのはまぎれもなくアメリカ車でした。先進の装備、パワフルなエンジンに加え、その独特なデザインは欧州や日本のメーカーに多くの影響を与えました。そんな古きよきアメリカ車の持つ独特な魅力を再確認できる企画です。

●1970年式ダッジ・チャレンジャーR/T 440+6 コンバーチブル

フォード・マスタングやシボレー・カマロが火をつけたポニーカーカテゴリーにクライスラーが1970年にダッジブランドから投入したのがチャレンジャー。その特徴はスポーティなルックスだけでなく、多くのエンジンバリエーションや装備をチョイスできることで、若者から富裕層までをターゲットにした。中にはハイパフォーマンスなV8エンジンもチョイスでき、オイルショックまで隆盛を極めたマッスルカームーブメントをけん引したモデルといえる。展示車両は440(7200cc) V8を搭載する。



●1967年式シボレー・カマロRS

4座のコンパクトでスポーティなスタイルだったポニーカーカテゴリーにGMがシボレーブランドから1967年に投入したのがカマロ。第1世代は2ドアクーペ、コンバーチブルが存在し、走りに注力したハイパフォーマンスなモデルも存在した。コンパクトなボディながら流麗な2ドアクーペスタイルで、ストリートからサーキットまで活躍した名車のひとつ。歴代モデルはアメリカのSCCAランザムレースで多くの実績を残した。2024年現在は第6世代目となり、今もアメリカ車の定番モデルとして君臨する。



●1976年式AMCジープJ-10



乗用車よりもピックアップトラックが売れるアメリカでは自家用でピックアップを所有することも当たり前の国。各メーカーが多くのピックアップトラックを販売するなかで、当時のAMCがジープのコンポーネントを流用したフルサイズピックアップがJシリーズ。これはそれまで存在していたピックアップトラックであるジープ・グラディエーターの後継モデルとして1971年に生まれた。当時は4輪駆動のフルサイズピックアップは珍しく、ジープの持つ高い悪路走破性は商用からレジャーまで歓迎された。

●1963年式シボレー・コルベット

第二次世界大戦のヨーロッパ戦線で欧州のスポーツカーに触れたアメリカ人たちの思いが起因となり、アメリカ製2シータースポーツとして1953年に生まれたコルベット。当時としては先進的だったFRPをボディに採用して軽量化し、そこにパワフルなエンジンを搭載した。アメリカ車の歴史のなかでも数少ない純粋なスポーツカーとしての歴史を今も歩んでいる。その中でも最も人気が高い第2世代最初のモデルとなる1963年式のクーペはリアウィンドーが2分割された「スプリットウィンドー」を持った稀少モデル。



●1983年式AMCイーグル・ワゴン

当時ジープの製造権を持っていたAMC(アメリカン・モーターカンパニー)がその4WDのノウハウをコンパクトな乗用車のボディに投入することで1980年に発売したのがイーグル。乗用車の乗り心地で高い走破性を実現させたモデルとして誕生した。ボディは2ドアクーペ、2ドア・コンバーチブル、4ドアセダン、4ドアワゴンが存在し、4ドアワゴンはもっともユーティリティの高いモデルだった。その発想は現在のクロスオーバーSUVの元祖ともいえる存在で、今見ても当時のアメリカの先進性を見て取れる歴史的モデルといえる。



※展示車両は、予告なく変更になる場合があります。